



国際交流員の活動日誌

vol.64



「キャンピング」 Camping

日本では7月は学校の夏休みが始まる月で、家族で遊べる活動の一つはキャンプです。コロナ禍でキャンプが人気だと聞きますが、焚き火台の使用と灰を持ち帰るルール、「デイキャンプ」の存在が、米国出身の僕には少し分かりづらいです。

英語の「キャンピング」では必ず泊まります。自然の中だけではなく、町の中や高速道路の近くにあるキャンプ場も多く、長く旅している家族は一晚の宿として使います。ホテルより安価なので、僕が

子どもの時によく利用しました。キャンプ場では焚き火の場所が無料で利用できて、ソーセージやマッシュマロを焼いた後、火を消したら片付けは終了でした。

キャンプでは大変な経験もしました。真夏の夜でもロッキーマウンテンの中のキャンプ場がとても寒くて眠れなくて、次の夜はタホ湖の湖畔で蚊の群れに刺されました。最も怖かったのは、朝起きてすぐにキャンプ場で熊を見かけたことです。幸い、かごに入ったペットでした。子どもの時に家族とキャンプする事でいろいろな思い出ができて、そして家族との絆がより強くなったので良い経験でした。

将来、家族がいればキャンピングで秘境の山や森で泊まる事の楽しさを一緒に知りたいたいと思います。でも、日本の夏休みならば、一人で秘湯の宿がいいですね。(トニー)

地域の魅力 ふる里再発見

保原城から保原陣屋へ - 2 - ～保原陣屋とは～

令和4年度第1回企画展

保原城から保原陣屋へ

8/7日まで(展示替え有)

伊達市保原歴史文化資料館



下保原村地図 (江戸時代後半) (伊達市保原歴史文化資料館所蔵)

伊達市保原歴史文化資料館で開催中の企画展では、展示替えを行い、6月18日④から「保原陣屋」を紹介しています。陣屋とは、藩の出先機関の役割を果たしていた場所です。

信達地方は、江戸時代に入ってから米沢上杉氏が支配していました。しかし寛文4(1664)年に藩主・綱勝が死去すると、米沢上杉家は30万石から15万石に

減石され、信達地方は幕府の直轄領となりました。

その後、寛保2(1742)年に白河藩主・松平定賢に11万石が与えられますが、そのうちの2万石が信達地方の下保原村を中心とした17カ村でした。この地域を支配するために下保原村に設けられたのが「保原陣屋」です。

保原陣屋の様子を描いたものに江戸時代後半に作成された下保原村地図(左図)があります。この村地図には、保原城跡や陣屋・街並みが描かれています。街道の中央には水路が配置され、社寺が描かれているなど、現在との比較をしながら当時の様子を確認することができるところです。